

第15回せいいい看護学会学術集会
—シンポジウム—

「看護の未来のための活動」 ～誰もが望む場所で自分らしく過ごせるように～

高関 左保¹⁾

少子高齢化社会を迎え保健医療政策は大きく変化しており、医療の現場での看護職への期待はますます高まっている。

私は、訪問看護ステーションに勤務し、「自分らしい暮らしを支え、より添う看護」を目指し、地域に住む方々が疾患を抱えても、自分らしい暮らしを継続できるよう支援してきた。

今回は、訪問看護ステーションの運営を中心に、これからの訪問看護ステーションはどうあるべきか、地域と看護の未来のためにどのような役割を果たすべきなのかお伝えしていきたい。

静岡県では2040年以降に在宅患者数がピークに達する一方で、生産年齢人口は減少が続くため、医療・福祉・介護の人材は不足していく。地域の在宅療養を支えていくためには、訪問看護ステーションが担う役割は大きい。そのため、訪問看護ステーションでも人材を確保し、持続可能な訪問看護の提供、機能強化、多機能化、看護の質の向上、地域包括ケアシステムの深化等が求められている。

当ステーションにおいても、様々な働き方やすべての世代が活躍できるようなシステム作り、機能拡大や多機能化への取り組みを行っている。また、看護の質向上のため、専門性の高い看護師の育成にも取り組んでいる。訪問看護ステーションにおいて長期間にわたる研修への参加は難しいが、受講前からの人員確保や受講費の補助、受講中の給与保障等を行うことで、毎年特定行為研修の受講者を輩出している。そして、後も活躍できるよう、地域の医療機関等との連携も行いながらステーション内でのシステム作りを行っている。

また、特定行為研修修了後も特定看護師同士の情報交換が行えるよう「特定行為やまいか浜松」を運営しながら、自事業所のみではなく浜松市全体で特定行為看護師が活躍できるような支援を行っている。

看護師が、地域で活躍できる場はまだたくさんあると考える。そのためには、看護の価値を可視化して認

知度を高めていく必要がある。「看護の力は無限大」であり、看護のこれからを考えると、固定観念にとらわれず、様々な可能性を模索しながら地域共生社会のキーパーソンとして地域全体を支えていきたいと考えている。

1) 訪問看護ステーション上西